



エアコンの内部洗浄による事故に注意 ～製造から長期間経過した換気扇・扇風機にも注意～

1. 事故の発生状況

2015年度から2019年度の5年間にNITEに通知のあった製品事故情報^{※1}のうち、九州・沖縄8県でエアコンの事故は合計36件^{※2}ありました。

(1) 県別および年度別事故発生件数（表1）

表1 エアコンの事故の県別および年度別事故発生件数（2015～2019年度）

発生年度	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計	
2015年度	3	0	2	0	0	0	0	0	5	
2016年度	2	0	2	1	0	0	2	1	8	
2017年度	1	1	2	0	1	0	0	2	7	
2018年度	3	0	0	0	0	0	3	2	8	
2019年度	1	2	0	1	0	2	0	2	8	
合計	事故件数	10	3	6	2	1	2	5	7	36
	火災件数	[10]	[3]	[5]	[2]	[1]	[2]	[4]	[7]	[34]

※1: 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2: 重複、対象外情報を除いた事故発生件数

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2）

表2 エアコンの事故の県別および被害状況別事故発生件数（2015～2019年度）^{※3}

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計	
人的被害	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重傷	0	0	0	0	0	0	0	0	
	軽傷	1	0	0	0	0	0	0	1	
物的被害	拡大被害	7	3	3	1	0	2	3	5	24
	製品破損	2	0	3	1	1	0	2	2	11
被害なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	10	3	6	2	1	2	5	7	36	

※3: 表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. エアコンの事故事例

九州・沖縄8県でエアコンの誤った内部洗浄方法による火災事故は5年間に2件発生しています。新型コロナウイルスの影響で、身の回りのものを清潔に保とうとする機運が高まっており、エアコンの内部洗浄を自ら行おうとする方が増えることが予測されますが、誤った内部洗浄方法では危険な事故に至るおそれがあります。

(1) 2016年5月（沖縄県、男性、40歳代、拡大被害）

【事故の内容】

エアコンのスイッチを入れたところ、エアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

エアコンのファンモーターのコネクター部に、エアコン洗浄時の洗浄剤が付着したため、コネクター端子間でトラッキング現象が生じて出火に至ったものと考えられる。

(2) 2018年4月（沖縄県、該当なし、不明、拡大被害）

【事故の内容】

宿泊施設でエアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

エアコンのファンモーターのコネクター部に、エアコン洗浄時の洗浄剤が付着したため、コネクター端子間でトラッキング現象が生じて出火に至ったものと考えられる。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」＋「NITEのロゴ」としてください。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 矢代、原田

電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329